

Clinical Question 10

脊髄小脳変性症患者に対する長期（継続的）理学療法介入は推奨されるか

推奨 脊髄小脳変性症患者に対する長期理学療法介入（9週間以上）を弱く推奨する。

推奨の強さ：弱い推奨

エビデンスの強さ：弱い

作成グループ投票結果

当該介入に反対する強い推奨	当該介入に反対する条件付き推奨	当該介入・対照双方に対する条件付き推奨	当該介入の条件付き推奨	当該介入の強い推奨	推奨なし
0% 0名	0% 0名	0% 0名	78% 7名	22% 2名	0% 0名

◆CQの構成要素（PICO）

P (Patients、Problem、Population)			
性別	指定なし	年齢	18歳以上
疾患・病態	脊髄小脳変性症患者	その他	
I (Interventions) / C (Comparisons、Controls、Comparators) のリスト			
I (Interventions) : 理学療法（筋力強化、ROM、バランス、床上動作、歩行など）			
C (Comparisons、Controls、Comparators) : 通常のケアのみ			
O (Outcomes) のリスト			
	Outcomeの内容		
O1	modified Ranking Scale (mRS)		
O2	ADL: Barthel index (BI)、Functional Independence Measure (FIM)など		
O3	協調性: Scale for the Assessment and Rating of Ataxia (SARA)		
O4	バランス能力		
O5	QOL		
O6	歩行能力		
O7	社会参加		
O8	転倒頻度		

解説

◆CQの背景

脊髄小脳変性症（spinocerebellar degeneration: SCD）は、進行性の神経変性疾患である。現在、遺伝子・分子構造解析が進み疾患の原因が明らかとなりつつある。今後、根本的治療にむけ、さらなる医療の発達が急務とされる。理学療法は有効な手段であるが、根本的な治療ではない。よって、継続的な介入が必要不可欠であり、理学療法の長期介入による効果を示すことが求められる。

◆エビデンスの評価

本CQにランダム化比較試験1論文、症例対象1論文、症例集積研究2論文が該当した。ADL（FIM）、運動失調症の評価（SARA、ICARS）、QOL評価（SF-36）、主観的評価（GAS）、歩行速度についてエビデンス総体をまとめた。FIM、ICARS、SF36についてはRCTでの報告が1編、それ以外はRCT以外での論文であった。論文数が少ないことから本CQでのメタアナリシスは実施しなかった。また、RCTで報告された結果は、本邦では症例報告がほとんどないFriedreich運動失調症を対象としており、結果の解釈には慎重になる必要がある。よって、エビデンス（科学的根拠）の強さは「とても弱い」と判断した。

◆益と害のバランス評価

RCTで2名と症例集積研究で1名の脱落を認めた。しかし、介入と直接的な関係があるとはいえない脱落であった（死亡1名、医学的な合併症のため辞退1名、介入中止1名）。よって、「おそらく介入側を支持する」と判断した。

◆患者の価値観・希望

サンプル数が小さいためにアウトカムの不精確性が高く、結果にばらつきが生じる可能性がある。また、本 CQ の主アウトカム（ICARS、SARA、GAS、歩行速、FIM）はパフォーマンス測定項目であり、必ずしも患者本人の主観的効果を反映しているとは限らない。よって、患者の価値観については「ある程度、不確実性やばらつきがある」と判断した。

◆コストの評価

介入内容と頻度は、自宅での自主トレーニング（2 論文）、3 回／週・1 回 60 の個別トレーニングを 5 年間（1 論文）、2 回／週・1 回 1.5 時間のトレーニングを 24 週（1 論文）であり、介入に際して特別な機器も用いていないので保険診療内で実施可能であるため、「わずかなコスト」と判断した。

◆採用文献

- 1) Voon V, et al : Long - term effects of coordinative training in degenerative cerebellar disease. *Mov Disord* 2010 ; 25 : 239-246
- 2) Miyai I, et al : Cerebellar Ataxia Rehabilitation Trial in Degenerative Cerebellar Diseases. *Neurorehab Neural Re* 2012 ; 26 : 515-522
- 3) Jesus S, et al : Improvements in Quality of Life in Individuals with Friedreich's Ataxia after Participation in a 5-Year Program of Physical Activity: An observational Study Pre-Post Test Design, and Two Years Follow-Up. *Int J Neurorehabilit* 2014 ; 01(03) DOI: 10.4172/2376-0281.1000129
- 4) Im S-J, et al : The effect of a task-specific locomotor training strategy on gait stability in patients with cerebellar disease: a feasibility study. *Disabil Rehabil* 2016 ; 39 : 1-7

◆文献・検索式は Web 掲載 <http://>